

光が丘図書館 図書館利用者懇談会

- 1 日時 令和6年11月22日（金） 10時～12時
- 2 場所 光が丘図書館 2階 視聴覚室
- 3 出席者 利用者 12名（うち1名介助者）、
施設職員5名
（光が丘保健相談所地域保健係長、光が丘なかよし児童館長、
青少年育成光が丘地区委員会事務局長、光が丘地域包括支援センター長、
光が丘障害者地域生活支援センター施設長）
図書館 5名
（光が丘図書館長、管理係長、運営調整係長、事業統括係長、子供事業統括係長）
- 4 テーマ 「これからの練馬区立図書館サービスについて」
- 5 配布資料 (1)次第
(2)練馬区教育要覧 令和6年版（2024年版）
(3)図書館だより（第57号）
- 6 次第
 - 1 光が丘図書館長挨拶
 - 2 図書館概要説明
 - 3 図書館・参加施設職員紹介
 - 4 参加者自己紹介
 - 5 懇談・意見交換
 - 6 閉会の挨拶

光が丘図書館利用者懇談会 会議録

1 光が丘図書館長挨拶

皆様、こんにちは。光が丘図書館長です。本日は、日頃、ご意見や疑問に思っていられることとお話しいただき、それにお答え出来ればと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

2 図書館概要説明

練馬区教育要覧の図書館部分を抜粋したものを基にご説明いたします。118ページ〔3〕の利用状況等をご覧ください。図書の貸出数として、光が丘図書館の年間の個人貸出点数は、104万点で区内では一番多く、予約数は、個人予約点数が30万5000点で、これも区内では多い状況です。

次に、120ページ〔4〕に各図書館の特色として、光が丘図書館は、平成7年2月22日に開館いたしました。区内最大の所蔵数や貸出しがあり、中央館的な役割を担っています。

光が丘図書館が、区内で一番大きくて、貸出しも予約も多いということがこの資料から分かります。

ここにはない資料ですが、全国的に見て、蔵書数は、練馬区は全国で18位、特別区で3位であることと、個人貸出予約に関しても全国で6位、23区で2位、1位はちなみに世田谷ですけれども、そのような状況でありますので、図書館としては、かなり頑張っている方だということをちょっと説明したくて、このような数字をお話させていただきました。

来年1月に図書館システムを更新するため、この年末、12月26日から1月13日まで、すみませんが休館させていただいて、図書館システムの更新をさせていただきます。機器なども変えたり、電子書籍の貸出しを始めたり、利用カードがスマホに提示できて、利用カードをお持ちにならなくても、代わりになるようなところが変わるところです。

詳しくは、1月以降に、ホームページや区報でお知らせいたします。

これ以外に、本日は近隣の関係機関の方にもご参加いただいているので、自己紹介をお願いしたいと思っておりますが、図書館中心にはなりますけれども、光が丘地域のお話もできるかと思っておりますので、どうぞ、ご意見を頂戴できればと思っております。

では、簡単ですが、私のご挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

図書館 次に、本日の懇談会の進行について、ご案内をさせていただきます。

2時間程度、正午終了を目途とさせていただければと思います。ご理解とご協力をお願いします。

本日の懇談会につきましては、既に終了しております他の図書館を含め、全12館の会議録として、意見の概要、懇談会アンケートの結果を、後日、図書館のホームページに掲載させていただければと思っております。その関係から正確性を期すためということで、会議の内容を録音させていただきたいと思っております。あらかじめご承知おきください。

では、続きまして、本日出席しております図書館職員及び近隣施設職員の皆様をご紹介します。

3 図書館職員・近隣施設職員紹介

事業統括係長、子供事業統括係長、運営調整係長、管理係長、

光が丘保健相談所地域保健係長、光が丘なかよし児童館長、青少年育成光が丘地区委員会事務局長、光が丘地域包括支援センター所長、光が丘障害者地域生活支援センター施設長

4 参加者自己紹介

5 懇談

本日は、現時点でガイドヘルパーの方にご参加いただいて、12名のご参加をいただいております。なるべく多くの皆様からご発言をいただきたいと存じますので、ご協力をお願いいたします。

発言したい内容、たくさんある方もいらっしゃるかと思いますが、初めは、お一人様二つぐらいのご意見、ご質問から進めさせていただきたいと思っております。時間で申し上げますと、お一人様3分程度で、一旦区切らせていただければと思います。時間に余裕がありましたら、改めてご意見、ご質問をお受けしたいと思っております。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

発言に際しましては、差し支えない範囲で結構でございますので、ご住所の町名とお名前、お願いできればと思います。例えば私でしたら、光が丘四丁目の内田ですという感じでお願いできればと思います。もし、お名前をお名乗りいただけなくても、それはそれで結構ですので、ホームページに掲載する会議録等には掲載いたしません。よろしくお願いいたします。

では、本日のテーマは、「これからの練馬区立図書館サービスについて」でございます。テーマに関連して、ご意見、ご質問のある方、挙手をお願いしたいと思います。

利用者 今は冬の時期で、外套を着て、ここに来館する人が多いと思うのですが、会議室、視聴覚室の利用者のために、かけるハンガーが欲しいですね。雨のときのかっぱとか、何もないので、そういうものは整備していただけたらと思います。

あと、2月22日に30周年記念ですが、何か記念イベントがあるのかどうか、お尋ねしたいと思います。

それから実際に私が非常に困っているのは、今、貸出期間が2週間なのですね。それで次の予約の人が入っていないければ延長できるのですが、それが延長した日から2週間なので、ぎりぎり2週間目に延長すれば一番効率的なのですが、毎日パソコンに向かっているわけではないので、その操作した日から2週間しか延長できないのですね。実質的に、もう少し余裕が欲しいなと思います。

もう一つ、活字離れが進んでいるというのですが、実際には、予約申込みが殺到していて、かなり待ちが多い本もたくさんありますね、対策をどのようにしているのか、どう考えていらっしゃるのか、お聞きしたいと思います。

図書館 では、ハンガーラックにつきましては、私もそのように思いますので、ちょっと予算を見ながらそろえていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

図書館 30周年の事業のことですが、今のところ、2月22日がちょうど30周年ということになりますので、その前後で、一応今年度については、パネル展示を考えております。パネルで光が丘図書館の30年を振り返る的なパネルを用意しよう、思っております。

2週間の予約のことですが、さっきの予約がいっぱいある本もあるというところと、ちょっと表裏一体なところがありまして、今のシステム上は、おっしゃったとおり、その日からというふうにさせていただいています。やっぱり読みたいという方もいっぱいいらっしゃる、一方で、今のお話ですと予約が入っていないからいいだろうというものもあると思うのですが、一方で、待ちが長いというのがありまして、今は予約が入っていないけれども、その後に入るかもしれないというところを考えると、今のところシステムでは入れた日から、延長する場合はその日を起点してという運用でちょっとさせていただいています。申し訳ないのですが、

予約が多い本の数ですが、待っている場合には多く買うこともあります、一方で、やはり作家の方とか、あと本屋さんから買う人が少なくなってしまうとか、そういうところも加味しながら、購入数については、一定程度の節度をもって買うようにしています。そのため、ベストセラーだから何冊も持つということには、なかなかないと考えております。

利用者 どのぐらいの待ちを許容範囲としているのでしょうか。例えば今だと、単純計算すると、これは2年待ちだという予約状況もあるのです。本によっては。例えば買わない

で、受入れを広くして、持っている人から寄贈していただくということも。

図書館 当然、寄贈という形もありますけれども、それはくださる方任せなところがあって、難しいところがあります。

待ちが長いというところも重々承知はしていますが、何年だからというような仕切りではちょっとやっていない形です。なるべく待ちが少ないようには努めているつもりです。でも本によっては、どうしてもやっぱり殺到してしまうことがあって、でも、多く買い過ぎてしまうと、逆に後ですごく残ってしまうこともあって、適切な数を購入することが難しいと思っております。

利用者 3点ぐらいあるのですが、まず、118ページの利用状況の表のところですが、貸出数のところの視覚障害者CD、カセットテープ。光が丘だけがやっていると思うのですが、どうしても0なのでしょう。どなたもお借りにならないのでしょうか。

図書館 すみません。どのような意味で0にしているか、ちょっと確認を後でさせてもらってもいいですか。申し訳ありません。後ほど調べて個別に回答させていただきます。

利用者 それから、実は貫井図書館の懇談会でもお願いしたのですが、貫井図書館は駅から近いということもあって対面朗読数とか、視聴覚室の利用数が大変多いのに、今度、美術館との新築ということで、3年も使えなくなる。ぜひ、代替場所というか、そういうことを考えていただきたい。

それで偶然だったのですが、奈良市立図書館が、近鉄の沿線2駅に図書館ボックスというロッカールーム式なものを予定では10月16日から、運用するという記事を見つけました。それは奈良市立図書館が利用者数を調べたときに、中学生から30歳ぐらいまでの利用者の方が非常に少ないということで、そういう方に利用していただくために、乗降客が多い駅の一角に、ロッカー式のものを2駅置くようにしたということなのです。予約は図書館にするのですが、そこで受け取るというふうにすれば、通ったときに借りられる。すごくいいことだと思って。

例えば3年間休む間に、中村橋駅の広場というか遊ぶ場所に、そういうものが置けないか。ぜひ、考えていただきたい。駅ばかりではなくて、代わりの場所をぜひ探して、そういうことをちょっと考えていただけたらと思います。

それから、視聴覚室とか、対面朗読の部屋も、練馬区の中で貫井を利用していらっしゃる方が一番多いのに、それが0になってしまうというのは、今でも、場所取りに時報と一緒に電話をかけるとか、皆さん大変苦労しているので、それもぜひ、代わりの場所を考えていただけたらと思います。

図書館 貫井図書館の利用懇談者の会の際にも、同じようなお話を伺ったのかと思っております。基本的に、そのときにお答えした内容と、今変わるところはないという前提でお話はしたいのですが、今幾つかお話があった中で、図書館の休館中の対応ということで、いわゆる貸出しをする、予約した本の受取りをするような仮設の窓口は、今の図書館近くのところに設置するような方向で検討をしています。今日の段階では、これ以上のお話しできません。

また、先ほど対面朗読の話もありましたけれども、対面朗読と、あとはブックスタートについては、これもお近くで継続するような方向で検討させていただきます。これも先日お話ししたとおりかと思っております。

一方、視聴覚室については、今、実は視聴覚室が込んでいる原因というのが、近くの中村橋区民センターが今改修工事をしている関係があって、その利用者の方がこちらに流れているという状況が実はあるのです。

貫井図書館の休館の際には、中村橋区民センターが、また改修が終わって開かれるようになりますので、ちょっと視聴覚室の利用については、中村橋区民センターが新しくなって、そこで貸部屋をやるようになっていきますから、そちらの方でご利用を促させていただこうかというふうに考えているところです。こちらの方はまだ検討中ですが、方向性としては、そのように考えています。

最後に、奈良市のロッカー式の話なのですが、いわゆるマンションにあるような宅配ボックスのような形で、予約した本をロッカーに入れて受け取れる。そういう仕組みがあることは私も承知しています。そういう事例があってということで。様々な情報収集もしております。

練馬区の場合、基本的に駅のそばに6か所の受取窓口が稼働しており、かなりの利用者の方がいらっしゃいます。貫井の方も休館中、仮設の受取窓口を設ける予定ですので、今のところ、ロッカー式のタイプをすぐに設置しようという考えはないです。

ただ、将来的に様々なニーズも踏まえて、無人でできるといういい方法がある反面、練馬の場合は大変利用者が多いので、ロッカーの数を大量に用意しないとあふれてしまうということになりますし、あと、貸すだけではなくて返却もということを考えますと、ただロッカーを置けばいいという話にもならないかなと思っていますので、情報としてはもちろん把握していますが、検討としては少し課題もあるかなというふうに考えています。

利用者 まずは、システム変更が今度されるということですが、私たち今検索していると一文字でも違うとか、あと、片仮名とかアルファベットの表記が違ったりすると、もう検索できなくなるので、今度のシステム変更でやりやすくなるのかということの一つ聞きたいことと、あと、日曜日に私たちがここで講演会をしたり、印刷機とかを使わせていただくことがあります。平日の場合は職員の方がいるので、何かトラブルがあったときは、対応していただけますが、日曜日の場合、なかなか委託の方が対応していただけない場合もあって、そこら辺の委託の方と職員の方との仕事の分け方で、私たち区民に対応するのは、一応職員の方のようなのですが、土日の利用のときに結構困ることがあるので、どのように分けていらっしゃるのか、日曜日は委託の方がやっていただけるようになっているのか、ちょっと聞きたいと思います。

それから、あと最後に、先ほどから貫井図書館の改築のことが出ているのですが、練馬の文庫連も、貫井図書館を世話人会などで使わせていただいています。

今日質問するのは、先ほど障害者地域生活支援センターのステップの方がおっしゃったように、数年前に読書バリアフリー法などもできて、今障害のある方が、一人一人が望む形で地域で普通に生活できるように、皆さん目指しておりますが、貫井図書館の改築で、エレベーター以外に、障害者への配慮というか、実施設計の中でどのような配慮がなされているのか。それから、ここは光が丘図書館なので、光が丘図書館の中でも障害者の利用について、どのような配慮がなされているのかというのをちょっと伺いたいと思います。

図書館 では、最初にいただいたシステムでの検索の件ですが、システムの変更によっ

て、よくなっていると思うのですが、どうしてもシステム上、癖というのがあって、さっきおっしゃられた一言一句というふうに、一言一句だとはじかれてしまうというところがあるので、逆に、スペースで両方入れることができるのです。検索のワードを二つ入れたりと、例えば著者を入れるとか、そういうちょっと広めに検索する方法があるので、ちょっと検索の仕方というのですかね、そこでちょっとそういう周知はしていこうと思っています。

どうしてもコンピューターなので、細かく入れれば入れるほどヒットしない可能性が出てきてしまうというところがあるので、それは皆さんがなるべく検索して引かかるような、このように検索するといいいですよというような周知をきちんとしていこうと思っています。

図書館 貫井図書館のバリアフリーの関係ですが、もちろんバリアフリー法という法律がありまして、そこで義務づけられている基準については、全てクリアをしているというふうに思っていただけだと思います。

それ以外に、バリアフリー法の建築基準については、福祉のまちづくりを担当している部署がございまして、そちらの部署の方から、障害者、重症の心身障害児、マシンをなさっている方々、そういった当事者の方々にヒアリングなどを行いまして、その結果を実施設計に反映していると。ちょっと具体的な内容など私どもは聞いていませんけれども、そういった形で実際の当事者の方々のヒアリングを含めて、今の設計に反映しているというふうに聞いています。

それで、具体的にいいますと、例えば廊下・通路の幅員などについても、法令で求められる基準よりも広く取れるようにしているところもありますし、本来そこまで義務づけられていないのですが、各階にバリアフリースイレを設置するような設計になっています。そういう意味で、義務づけられている基準はもちろんクリアしておりますし、エレベーターも含めて、様々な形でバリアフリーを行いたいということで設計の方は取り組んでいます。

図書館 光が丘には、「りんごの棚」があります。子どもが誰でも手に取れる、理解しやすい本を集めたコーナーです。今あるのが光が丘と貫井と練馬図書館。これから少しずつ増やしていこうと考えております。

その「りんごの棚」には、大活字本、オーディオブックとか、子どもたちにも理解しやすく、また、日本語を母語にしない人にも分かりやすい本があり、福祉的な観点からやっているところです。

図書館 30年前、光が丘図書館の建設当初の準備に関わったので、お話しします。障害者向けのトイレと健常者の方が使うトイレが同じ敷地内というのが、かなりバリアフリーとしては当時変わっていたかと思います。誰もが入れるトイレということで、入口は一緒に、奥に車椅子用のトイレがある形式は、障害者に配慮したものという意味合いではできたものです。

ただ、建ってから、男性が介助者で女性がトイレへ入るときに、男性がそのトイレに入っていけないというお話をいただいて、職員が介助で入ることがあって、一長一短だと開館してから思ったことです。

もう一つは、一応、車椅子がどこでも回転できるようにということで、あの当時で通路

幅などは広めですし、エレベーターを降りたところで回転できるようにということはやっています。

ただ、バリアフリーの考え方が、福祉のまちづくり条例というのが年々変わっているので、多分、今で言うとかリアできない部分も、もしかしたらできて来るかもしれませんが、建設当時はそこまでかなり配慮して、どこでも車椅子が通れるようにという前提で、書架と書架の間も広く取ったりとか、そういう工夫はかなりして、誰でも大丈夫というところまでかなりやった記憶はあります。

あとは、入り口でピンポンとたまに音がするのは、あれは視覚障害者のために、入り口がここですよということが分かるために鳴らしているものなのですけれども、夜間はうるさいとご指摘をいただき、今は、夜間は消しています。また、点字ブロックが館内にあることの配慮は、かなり光が丘図書館でも、あの当時考えられることは、やらせていただきました。

唯一なのは、光が丘図書館に録音室があるということです。録音室は練馬区内の図書館ではなかったので、対面朗読室と一緒に録音室を作りました。

印刷機に関しては、ちょっと今すぐお答えできないので、後ほど確認してお答えしたいというふうに思っております。

利用者 今、図書館内に出している本と下の書庫にたくさん本があると思います。その入替えは、どれぐらいの頻度でやっているのでしょうか。2週間に一回とかですね、あるいは本によっては使用状況を見てまちまちとか。その辺はどうなっているか、もし分かりましたら、お願いいたします。

図書館 一応、閉架と言っていて、発行年数が古くなったものとか、貸出回数が少ないものとかを閉架というところに置いてありますが、ただ、検索をするとどこにあるということは分かりますので、予約が入った時点で、その本を取ってきます。

基本、入替えはしないです。開架というか、外に出ているのは新しい本です。

利用者 この教育要覧の中で、129ページで、よみきかせ・おはなし会という項目で、こんなにたくさん図書館でおはなし会とかをされていて、私たちもボランティアとして活動していますが、こういうおはなし会に、私たちのボランティアの者が、おはなしハッチとして参加させていただくには、どういう資格が要るのか、ちょっとお聞かせ願えればありがたいなと思いました。

図書館 よみきかせ・おはなし会は、年に一回ボランティアの募集を行っており、そこでボランティア講習会を受けていただきます。脳活プロジェクトとはまた別なものとしてやっています。もし、おはなしハッチとしてやりたいのであれば、個人的にお部屋を借りて行っていただくことになります。

児童館や地区区民館に行かれたり、敬老館、デイサービスでのおはなし会など、いろいろと脳活プロジェクトの卒業生が活動されていると思うのです。活動場所がみつからなくて、ご苦労されている方も多いいことは聞いております。

施設からは、お話会の読み手を探しているけれども、どこに聞いたらいいのだろうと逆に聞かれることもあります。

利用者 今のお話で、個人で図書館のボランティアの講座を受けるということでしょうか。

図書館 個人で受けていただいて、各図書館それぞれグループがありまして、そのボラ

ンティアのグループの中で、何日、誰々さんがやってくれませんかというのを決めて、どんな本をやりますかという運営会議をやりますので、ハッチの会だけとか、私たちの会だけでやりたいというのであれば、ちょっと無理だと思います。

利用者 図書館で、そのボランティア講座を受けた人というのを初めて知ったので、とても勉強になりました。ありがとうございます。

利用者 今、同じ129ページで、おたのしみ会等と（５）のところでありますよね。それで光が丘は線が引いてありますが、おたのしみ会はどんなことかしら。工作会とおたのしみ会は線が引いてあって、やっていないということなのかしら。

図書館 大変失礼しました。ここに線を引いてありますが、おたのしみ会という形でやっています。光が丘も年３回やっているのですが、ここには線が入っていますけれども、実際は行っています。

利用者 ありがとうございます。

あと、ちょっと一つお願いですが、他のこういった利用者懇談会に出たときに参加者が本当に少なかった館もあるんです。

できれば、私は図書館独自で何月何日に、ここで利用者懇談会しますよという、この図書館、利用者懇談会がありますよということを各図書館にアピールしてほしいのですね。やっぱり来てもらいたいのか、もらいたくないのか分からない。利用者が参加してほしいのだったら、やっぱり図書館としても、それなりの、たった二人か三人のために、こういう職員の方やいろいろな方が集まってくさるというのはすごくもったいないので、せっかくなら、耳の痛いことでも、図書館にとっては耳の痛いことがあるかもしれないけれども。

利用者 そうだと思いますけれども、他の図書館ですごく少ない館もありますので、できれば、各図書館独自で何月何日にあります。もちろん、こういう図書館だよりを読んだりとか、区報を読んだりとか、そういう方は来ないという選択を取っているかもしれませんが、毎日のように図書館にいらっしゃっている方が、全然出席してない点も残念かなと思うので、もう少しアピールの仕方を考えていただけたらいいなと思います。

あと、この後ろの方の機材がもう使えなくなって、映写ができないとか、もったいないなと思うのですよ。ここを開館する前にあれだけ話し合ったことが、一体どうなってしまったのだろうと。壊れたから違うものに変えればいいわというのではなくて、壊れたら直していこうとか、やっぱりそういったこともちょっと考えていただきたいなと思って。映画会なんかもしたいと。もし図書館でできないなら、ボランティアを募ってやるとか、そういったこともできると思うので、ぜひ、図書館の全てのものをできるだけ有効に使って、運営していただきたいと思います。

図書館 それでご不便おかけしているところなので、まずプロジェクターを購入しまして、映写会はできるようにしてあります。その上で、備えつきのこのプロジェクターを直せないか確認し、もう古くて直せないため、新規でいろいろ見積り、予算等を確認しました。相当の金額になるため、光が丘図書館の改修計画が何年か後にあるかと思いますので、そこに合わせて修繕または、新しく設置させていただければと考えております。ご理解いただければと思っています。

あと、利用者懇談会の周知ですが、まず区報、それから図書館のホームページ、あと図

書館だよりですね。あと各図書館において、館内掲示をしております。

この後、例えばもうちょっと媒体使ってやればということですが、区の広報も結構募集の定員とか、いろいろな制約があってなかなか難しいところがあります。何人以上の会ではないと、ちょっと出せない。なかなか出してもらえないので、今検討はしておりますが、もうしばらくご容赦いただければというところですよ。

利用者 私も今回、図書館だよりで懇談会を他の館でも行かせていただいたら、私ここに出席していいのというような雰囲気だったのですね。それで今日は、館内放送を2回流していただいて、やっぱり私も参加できるのだということで今日参加させていただきました。やっぱり図書館を利用している方が、そういう意識があれば私は参加されると思います。

図書館 私は10館の指定管理の指導・監督をしております。練馬の夜間と光が丘の窓口も民間の事業者が運営しています。

先ほどお話がありましたように、利用者懇談会で厳しいご意見いただく場合もあります。決してそれを避けようと思っていないと思いますけれども、せっかくの機会ですから、一人でも多くの方に参加していただいて、広くご意見いただけるように、それはやっぱり業務の中でもきちんとやるようにしていきたいと思っていますし、周知も含めてそれぞれの事業者に対してきちんとやるように、お話ししたいと思います。

利用者 よろしいですか。ちょっと2点あります。

1点目ですが、先ほど出ました、よみきかせ・おはなし会につきまして、図書館の方でも、ご考慮いただいているというのは分かったのですが、私たちのグループといたしましては、読み場を開拓するというのが結構大変なのです。片や保育園、幼稚園、児童館の方でも、お話をしてくれる人を求めている。お互いに何というのかしら、マッチングする場がないと思うのですね。その役割を担うのが、図書館であるのか、あるいは区役所の方で担ってくださるのか、その辺はちょっと分からないのですが、その辺りをぜひとも、マッチングアプリみたいなものを使っていただいて、区役所の方ともご協力いただいて、進めていただけたらとてもありがたいと思います。

それから、もう一つですね。また貫井図書館の話に戻って恐縮ですが、来年、工事の竣工が11月1日というふうに。

利用者 看板にそう書いてあった。外の看板にね。

利用者 前回の貫井図書館の利用者懇談会のときにお伺いしたのですが、もうちょっと具体的に、いつから図書館が閉館するか、その辺りをちょっと具体的にお聞かせ願えればと思います。よろしくお願いいたします。

図書館 マッチングが大切だなと思っております。

だから私の方も、何かできないかな。一方は探していて困っている。一方はやりたくて困っている。うまく手と手が結ばればいいですね。だから、どういう方法がいいのか。ちょっと今日の段階で答えが出るわけではないですが、私も考えていますという意見表明でよろしいでしょうか。ありがとうございます。

図書館 では、2点目です。これも何か同じようなご質問を貫井のときも受けたような気もするのですが、皆さん本当に貫井図書館のことについて、本当に心配していただいております。利用者の方々を含めて、非常に不安といいますかね、どうなるだろうというのがあるのだなというのは、本当に日々感じています。

いつから休館なのというシンプルなご質問ですけれども、ちょっとそれも今日この段階で、いついつからですと、ちょっとはつきりは申し上げられません。

外の看板出ているのは、あれはまちづくり条例というものに基づいて、出てきた事業者からのその内容を掲示しているもので、あくまでも予定というような位置づけになりますので、私どもも公表できる段階になりましたら、貫井図書館での例えば掲示だったりも含めて、皆さんに丁寧にお知らせしますけれども、お気持ちは非常によく分かりますけれども、今日この段階で、いついつからですと明言することはちょっとできませんので、何とぞ、ご容赦いただければと思います。

利用者 ありがとうございます。

利用者 私は石神井の近くに居まして、石神井図書館の利用者懇談会に今回参加させていただいたのですが、一般事業者の方は、やはりいらしていなかった。今回は初めて光が丘図書館で、地域の施設の方たちがおいでいただいているということで、新しい前進かなと思うのですが、逆に石神井なども地域の利用者と、石神井図書館を利用している団体の方たちが集まった。そういう会。個人の方は入ってはいない。

光が丘は、その点では個人の方が会議に参加されているという点では、評価できるのですが、逆にメリットとして石神井とか、各図書館の利用者懇談会の状態を見ていくと、地域のいろいろな施設の方たちがおいでいただいて、図書館と話し合うことで、いろいろな連携が生まれる。それはとてもいいことだなと思います。

それとあと併せて、その図書館を使っている利用者のグループ方たちとの融合ですかね。その利用者同士の、グループ同士のつながり、そのようなことが生まれるということも、少しはあるかと思うのですね。そういうのを逆に光が丘図書館はしていないのではないかなと思うのですけれども、その辺りはいかがでしょうか。

もし今後、その利用者の会、光が丘を使っている利用者の会同士の結びつきを前進させるためにというか、そういうのはうまくマッチングできると思う。例えばブックスタートの会とおはなし会の結びつきがもっと密になったりとか、そういうふうな会を通して。要するに横のつながりが全然、図書館の中でも、やはり孤立しているというふうになってしまっているのではないかと思うのですね。

あわせて地域の施設の方たちも、そういうことの状況を今回おはなし会などでちょっと盛り上がっていましたけれども、そういうようなことで知られて、では、うちのところでも、そこのところをお呼びしようとかというようなことにつながる。何かそういうふうな場合も、ここの利用者が懇談会や、または別のグループでもいいのですけれども、会がそういうものにつながっていったらいいのではないかなということをちょっと思わせていただいたのが、今回の利用者懇談会と思っております。

図書館 ありがとうございます。おはなし会、ブックスタートというのを図書館でやっている事業を施設の方に知ってもらえたということもいいことだったと思いますし、今日、児童館の館長さんもいらっしゃっていて、児童館でも、おはなし会を求めているところがあるかどうかとか、そういう情報共有ができたかもしれない。そういう団体がいるよということを、今日ハッチの皆さんがいらっしゃっているから、宣伝ができたかなというところもあるし、読み聞かせのボランティアをやられている方も、今日、会場にお越しいただいているし、そういうところで顔つなぎというか、どういうところが、どんな活動してい

るのかという、お互いを知ることができたのかなというところで、私も勉強になりましたので感謝しているところです。

ありがとうございました。

利用者 光が丘図書館は、月に10回ぐらい利用させていただいています。

先日なのですけれども、ヴィクトル・ユーゴーの93年を読もうと思ひまして、5番のカウンターで「ヴィクトル・ユーゴーの93年お願いします」と言ったら、「ビクトリイゴーですか」とか言って、あれ、この人、ヴィクトル・ユーゴーも知らないのか。何でというふうに思ひまして、積極的に力を入れて、職員のレベルアップを図って、せめてヴィクトル・ユーゴーぐらいは、全員知っているようになっていただかないと困ります。教育に力を入れていただきたいと思ひます。

図書館 申し訳ありません。

利用者 貫井図書館のことがたくさん出たのですけれども、私たちの会、文庫連の中でも、貫井図書館の視聴覚室で年に一回、委託講座を開くという団体が何組かありまして、具体的に、例えば委託講座の申込みが、来年度は1月31日に前期分を申し込まなければいけない。そこで、講師を決めたりとか、何月何日に開くというようなことの書類を予定なのですが、区の方に出さなければいけない。それで、貫井図書館の視聴覚室が使えなくなるのがいつかということが分からないと、そこを使う団体は、例えばいつも10月後半に委託講座を入れるとして、先ほど係長さんが、これは11月の予定ですとおっしゃったけれども、それが10月になったときに、その10月の開催する予定の方の人たちとしては、大変な混乱を招くと思うのですね。なので、いつまでに何が使えて、どこが徐々に閉まっていくとか、そういうような情報をいただくと、とても使う側として、本を借りるだけではなく、そういう図書館の中に施設を借りて行って活動する団体のメンバーは、とても助かるのではないかなと思ひましたので、ちょっとお願い申し上げたいと思ひました。

それともう一つは、皆様へのお礼なのですけれども、130ページの11番に、文庫活動支援講習会という報告がありまして、今年は「おうちでできる本の修理」ということで、とてもいい講習会をしていただいたと思っています。それのお礼を言いたいと思ひて、今日は来ました。

昨年度は著作権の講習会、講演会をいただいて、それも集まったメンバー、区報に載りましたので、私たちが知らないお客様にもたくさんお会いしたのですけれども、みんながそれぞれに、今まで著作権のことをどこでどういうふうに聞いていいか分からなかったけれども、やっとここで聞けたというような、ステップが踏めた、そういう大事な講習会だったなと思ひます。

これは恐らく、ずっと手づくり講習会という名目で続いてきた催しだったと思うのですが、ここしばらく、このように文庫活動とか、それから、子どもの本の読み聞かせとか、そこに関わる人たちにとって、手先の工作の問題だけではなくて、知識としてためておいていくものを教えていったという大事な講演会に少しずつ変わっていているということを私はとてもうれしいなと思っていますので、工作の講習会も、きっと途中でいろいろと入ると思うのですが、こういうような講習会、講演会をととても歓迎していますということをお伝えしたいと思ひます。

ありがとうございました。

図書館 これも繰り返しになってしまって申し訳ないのですけれども、まちづくり条例に基づく今掲示では、11月1日から予定という掲示をしています。

そういうことですので、工事の開始の日ぎりぎりまでですね、開館するというのは難しいというのは、皆さんも常識的にはお分かりだと思いますし、工事の時期というのが、早まるのか、遅くなるのか、そこも含めてなののですけれども、今の時点ではちょっとお話ができないと。場合によっては、来年の秋の時期に、先に予定を入れてしまったときに、休館日が決まりまして、ちょっと予定をずらしていただくというようなことも申し訳ないのですけれども、日にちによっては、そういうことも、ゼロではないかもしれませんけれども、今ここで申し上げられるのは、工事の予定が全てということで、直前のところだと、ちょっとご予定に影響がある場合もあるのではないかな。その辺はご理解いただきたいなと思いますけど。

利用者 でも、とてもね、頼りにしている視聴覚室で、できれば少し。今日分からなくても、分かる段階で少し情報をいただいて、安全な運転をしていただきたいなと思います。

本当に頼りにしている視聴覚室なのですね。駅から近いので、本当にお客様にとっても便利で、他のちょっと遠いところの会議室を使うよりも、貫井図書館の視聴覚室で委託講座をするとすると、やっぱり来やすい、お客様が参加しやすいという条件がとても整っていますので、それを私たちはとてもあてにしていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

利用者 先ほどの続きになりますけれども、練馬中央図書館をしっかりと作るような協議会をぜひ立ち上げていただきたい。

いっぱい今、ずっとお話聞いているとやっぱりね、部屋は足りない、場所が足りない。あるいは、日本以外の先進国で必ずやっている、これからの日本を考えると、外国人にいろいろな仕事を手伝ってもらわないといけない。そういう時代がどんどん今進んでいるわけですね。そのためには日本語をしっかりと彼らに学んでもらう、そういう場を、どの国でも、図書館が積極的にやっているわけ。日本はなぜそれをやらないか。図書館になる場所がないですね。中央図書館の私が思っている中央図書館というのは、今の東京都の中央図書館に匹敵するぐらいの大きさではないと、いろいろな役割が作れない。メーカースペースを取ったら。メーカースペースという言葉がちょっと分からないかもしれないけれども、いろいろな団体が、自分たちのやりたいことをしっかりと部屋を借り切ってますね、そこに自分たちの資料を置いたり、あるいは好きな人たちが好きなときに集まってやれるような、そういう場所を公共団体が無料で貸し出すわけです。そういう場所、今の練馬では全然ありません。

やっぱり場所が問題ないと思うのだけれども、この間、ある人からですね、ココネリをなぜ中央図書館にしなかったのかねという話が出る。あのときは、そういう発想がなかったと思うのです。私自身も、あのときは漫画博物館にしたいというのが最初の出だしだったよね。それは京都の漫画の歴史をしっかりと考えてやっていることかと聞いたら、それで京都のアニメーションの事情をしっかりと学んだ人たちが、やっぱりあれに匹敵することはできないということになってしまったのです。今、ココネリに変わってしまっているのですけれども、あのときに、でも、今のココネリのスペースでは、多分足りない。小さい子どもが本当に大きな声で騒いでもいいような部屋を作らないといけないだろうし、あるい

は静かに本を読むところと、それから、本なり、議論なりができるような場所、そういう本当に完結された場所が欲しい。図書室もそうだろうし、読書もそうだろうし、そうなってくると部屋がうんと足らないのですね。やっぱり、7階建て、6階建ての、それで大きなスペースを必要とするわけです。それは、先進国の中央図書館に行けば、本当にそう思う。多分ね、練馬の環境を含めて、教育庁も含めてですね、海外の中央図書館を見たことない。本当にそう思いますよ。

これ日本のね、先ほど言いましたように、日本の図書館文化、教育文化というのはレベル低いのです。経済だけはね、先進国並みになっているけれども、このね、芸術文化のレベルを上げないと日本は立ち行かないです。生産力は海外にシフトしてもですね、文化度というのは、やっぱり自分たち国民一人一人が、それだけこうやって成長しなくてはいけない。今ある練馬の図書館というのは、みんなどこか遠いところにあるわけですね。光が丘なんかその最たるものです。駅からこれだけ離れているのです。そうすると、今までの本当言うと、本を必要とする人は遠くても来るけれども、そうではなくて、学校の帰りとか、仕事の帰りとか、そういうときに、やっぱり教養を高めて、文化度を高めて、それで次の仕事にスタックしていく、そういう力を社会教育法という法律があるわけですね。

社会教育法に書いてあることは、社会の教育の主たる担い手は図書館。全世界みんなそうですよ。社会教育の主たる担い手、主な担い手。図書館を初めとして博物館、美術館、そういうものがそういう役割をしているわけですがけれども、本当に主なスタッフは図書館。そういう意識が日本の図書館にない。練馬にもない。

だからそれはぜひね、特に中央図書館をこれから、貫井がですね、美術館をあれだけ大きな仕事を作り上げたのは3年、4年前、5年前かな。ただ専門家を図書館長にして、それで協議会で、あれだけの中身を作り上げてきたわけですね。これから、2年か3年たって、5年たっても、練馬の中央図書館をどれだけどういうふうにするべきだと言われると、協議会としてスタートする、そのスタートを光が丘の館長が主体になってやっているわけ。

図書館 光が丘図書館は中央館的機能を持つ図書館として開館しております。その後に中央館が30年間できていないというのが実情でございます。

その中で頑張れる資料収集や蔵書数の増だとか、貸出しを増やすにはどうしたらいいかということはやらせていただいております。

図書館が駅から近い所は、貫井図書館と春日町図書館でありまして、それ以外の近くない所は受取窓口があり、駅に近い所で区内で6か所作らせていただいております。それにより、ご自宅から1キロ圏内に、基本的には図書館か、または受取窓口があるというような状況です。通勤の帰りの際には、最寄りの駅で借りていただくようお願いをしているところでございます。その点は、やらせていただいているところでございます。海外、特に北欧の図書館のレベルからすれば、かなり低いことはおっしゃるとおりでございます。

それをどうやったら、区立図書館を上げていけるかが、私どもの仕事だと思っているところです。

図書館 お時間がちょっと迫ってきたところですがけれども、ちょっと今日、近隣施設の方も来ていただいているので、ちょっと残りの時間で1か所、青少年の佐藤事務局長の方から、ちょっとご紹介いただきたい事例だけ、お願いできますか。

青少年育成光が丘地区委員会事務局長 青少年育成光が丘地区委員会ですが、こちらで行

っている事業で「中学生サミット」という事業がありまして、光が丘の一中、二中、三中の生徒会役員さんが集まって、討議するという内容です。毎年行っておりまして、今年は8月2日に、「中学生と読書の必要性について」という内容で協議を行いました。中学生の方からこういう内容で討議をしたいという案がありまして、それを論題として話し合いました。

実は一中も、二中も、三中も、毎朝10分程度、読書の時間を持っています。自分が読みたい本を持ってきて、そこで10分間読むのですが、中には読書が嫌いで、本を見ながら宿題などをやっていたり、落書きをしている子どももいるようですが、その時間ぐらいは本をしっかりと見ようということです。

さっき資料を見ていて、教育要覧の129ページにある「本の探検ラリー」は、小学校では39校も行っているが、中学校になると2校しか行っていない。

次に131ページの団体貸出は、小学校では延べ630団体も実施しているのに、中学校では43団体しか実施していない。せっかく、練馬区には12館の図書館があるのに、中学校の利用が非常に少ない。

先ほど言いましたように、子どもたちがそれなりに読書には関心もあるし、読む子どもも多いですね。

この間のサミットでの感想でも、やはり本を読むのは非常に大切だということを子どもたち自身よく分かっていて、せっかくですので図書館と中学校との交流というか、図書館側の働きかけがいいのかな。中学校だと、どうしても授業が優先になってしまい、中学校の方から時間取ってきてくださいみたいなことは多分ないと思うので、少し交流というようなものを進めていただければと思います。

図書館 今日は、近隣施設の方が来られていますので、どういうふうに図書館として連携していけるか模索していきたいと思いますし、今実際にやっていることも、ぜひ、皆様にもご承知おきいただければと思います。

利用者 すみません。今の中学生サミットの内容については、どこかで見られますか。どんな話がされたのかとか、あと、そういうものの記録みたいなのはどこかで見られますか。

青少年育成光が丘地区委員会事務局長 光が丘地区の小・中学校には配っているのですが、うちの広報誌に、中学生サミットの記事が載っています。これが一つの記録ですかね。他は特にないです。

利用者 図書館には置いていない。

青少年育成光が丘地区委員会事務局長 図書館には置いていない。

図書館 地域資料で送られてきて置いているときもあります。あとは青少年館とか、光が丘地区の施設に配っていますか。

青少年育成光が丘地区委員会事務局長 配っていないです。今は小中学校だけです。

図書館 大変恐縮なのですが、お時間来てしまいました。皆様、今日お会いして、情報交換したいということもあろうかと思しますので、しばらく、この会場を開けておきます。

すみませんが、最後、アンケートをご記入いただいて、準備が整った方からお帰りいただければと思います。

それでは、以上をもちまして、令和6年度の光が丘図書館の利用者懇談会を終了したいと思います。本日は、ご協力ありがとうございました。